

第316回くらしの植物苑観察会 令和7年10月25日(土)

「くらしの植物苑の菌類」

栃原 行人 千葉県立中央博物館 研究員

今回の植物苑観察会では、植物とは切っても切り離せない存在である「菌類」をテーマに取り上げます。菌類は植物でも動物でもない独立した生き物で、きのこやカビ、酵母などが含まれます。秋はきのこ狩りの季節として知られ、食べられるきのこや毒きのこに注目が集まりますが、実際の菌類はとても多様で、マツタケやシイタケのような大型のものから、1ミリに満たないほど小さな種類まで存在します。

樹木の落ち葉や小枝を拾ってルーペで観察してみると、肉眼では見えないほど小さな菌類が見つかることがあります。こうした菌類は、落葉や枯枝を分解して土へと戻す「分解者」として働き、陸上の生態系における物質循環を支える重要な役割を担っています。菌類は普段あまり注目されませんが、実は自然界のあらゆる場所にさまざまな姿で存在しているのです。

観察会の前半では、くらしの植物苑の苑内を歩きながら、秋に見られるさまざまなきのこを観察します。植物苑ではこれまで本格的な菌類調査が行われておらず、どのような種類が生育しているのかはまだよくわかっていません。参加者の皆さんとともに、足もとや頭上に目を向けて、身近な環境に生えるきのこを探してみたいと思います。

後半では、スライドを用いて菌類の基本的な特徴や生活のしくみ、発生環境などを紹介します。身近な場所で菌類を見つけるための観察のコツや、顕微鏡による観察方法についても解説します。また、菌類ではまだ大半の種に名前がついていないとされ、近年でも数多くの新種が報告されています。菌類の分類学的研究がどのように行われるのか、そして菌類の「種」とはどのように定義されるのか、といった点にも触れながらお話ししてみたいと思います。

今回の観察会を通して、ぜひ身近で奥深い菌類の世界に親しんでいただければ幸いです。

.....

次回予告 第317回くらしの植物苑観察会 令和7年11月22日(土)

「菊の栽培書をよむー栽培用員を中心にー」

平野 恵 氏 (台東区立中央図書館 専門員)

13:30~15:30 国立歴史民俗博物館 ガイダンスルーム 申込不要